

〇〇小学校防災教育プラン（目標及び内容例一覧）

項目	防災教育の目標		防災教育「横浜の時間」の内容
	知識・理解	技能・実践力	教科に横断的・及び総合
個別支援	学校内や家庭内で危険な場所、避難すべき安全な場所について知り、安全な行動をとることができる。	通学路や地域での危険な場所、安全な場所を考え、身を守ることができる。	(生) 上郷宿泊体験 (生) 調理実習 (生) 市営バス体験
1年	学校内や家庭内で危険な場所、避難すべき安全な場所について知り、安全な行動をとることができる	緊急地震速報で、どのような場所でも安全な場所に移動することができる。 「お・か・し・も」を守り、秩序正しく避難ができる。	(国) ずっとずっと大好きだよ (生命尊重) (生) 学校探検 (学) 安全な通学
2年	地域の様子を知り、通学路や地域での危険な場所、広域避難場所などを知り、震災時にとるべき正しい行動を考えることができる	通学路や地域での危険な場所、安全な場所を考え、身を守ることができる。	(国) スイミー（共助の精神） (国) 話すこと、聞くこと (生) 町探検 「広域避難場所」
3年	地域の地形や住宅密集の様子などを知り、火災からの避難の仕方などを考えることができる。	地域の様子を把握し、火災などの二次災害から避難する判断力をもつ。	(社) この町の様子 地形と土地利用 住宅密集度 (社・総) 〇〇はももの里 田んぼと畑だったこの町
4年	地域の自然災害に対して先人が闘い、克服してきた歴史や現在も地域の人々が共助、公助によって地域の安全や災害時の助け合いをしようとしていることに、地域人としての生き方を学び、考えをもつことができる。	家庭内で自分と家族がけがをしないために備え、行動する判断力をもつ。 地域防災拠点訓練に親子で参加し、地域防災拠点の意味や、防災のための備えを体験的に学ぶことができる。	(社) みんなで安全を守る (理) カセットコンロの使い方 (総) みんなで守る地域の安全 「親子で地域防災拠点訓練体験」 (総) 〇〇洪水とのたたかい (総) 愛川体験学習 「南から来た丹沢」
5年	教科学習に関連して、地震、火山、台風、洪水などの自然災害への理解を深め、自然の理解や過去の災害の教訓を未来の防災に活かそうとする考えをもつことができる。	家具の固定、食器など飛び出し防止の重要性を理解し、実践しようとする。 応急手当を学び、自分や家族がけがをしたら適切に応急手当ができる。	(国) 百年の堤防を築く (理) 台風 (理) 流れる水のはたらき (保) 応急手当 (総) 流水がつくった〇〇 (総) 神奈川の活火山、箱根 (家・総) 地震に安全な家庭づくり
6年	教科学習に関連して、地震、火山が国土をつくってきた事実や震災、大火災の歴史を学び、繰り返す自然現象に対して、被害を最小限にするための備えや方策にを学んだり考えたりできる。	「何を守るか 何から守るか どう守るか」の、地震によって派生する危機に対応する思考力、判断力をもつことができる。 在宅被災生活を生き抜くための調理法などを体験的に学ぶ。	(算) 速度 津波の速度 P波・S波の速度 (理) 地震・火山による土地の変化 (理) てこのはたらき (社) 関東大震災 (家・総) 在宅被災生活の備えと食事 (総) 地震に強い〇〇に (総) 地震火災をどう防ぐか？ 実技バケツリレーの方法

〇〇小学校防災教育プラン 個別支援級・基礎 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	緊急地震速報で、どのような場所でも安全な場所に移動することができる。 「お・か・し・も」を守り、秩序正しく避難ができる。 通学路での危険な場所、安全な場所を考え、身を守ることができる。	
	知識・理解	学校内や家庭内、地域で、危険な場所、避難すべき安全な場所について知り、安全な行動について理解している。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	健康や安全に気をつけて生活する。 生命を大切にする心を育てる。	日常生活とかかわって、健康や安全に気をつけて生活する態度や、生命を大切にする心を育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 運動会	上級生の行動に学び、自ら考えて身を守る行動がとれるようにする。 秩序ある、集団行動の取り方ができるようにする。
	生活指導	安全な登下校	地震に際しては、ブロック塀や電柱から離れ、「団子虫のポーズ」などで身の安全を図れるようにする。
	教科等 生活単元	(生) 上郷宿泊体験 (生) 調理実習 (生) 電車に乗って でかけよう (生) 学校たんけん	・宿泊体験学習に向けての学習を通して、自立した生活態度や、ルールを守り、自他の安全を確保する行動がとれるように学習する。 ・調理学習を通して、食への関心を高め、自立した生活態度を養う。 ・交通機関の利用を通して、街中や交通機関には、安全のための配慮や備えがあることを知る。学校の隅々までたんけんして理解し、 教室の他の場所で地震が来たときの身の守り方を教師に教えられて知る。
学 校 外 での 学 習 内 容	家庭内の防災教育	家の中の安全な場所、危険な場所 家族の連絡	・「家庭防災会議」で家の中でだけでなく地震をやり過ごす動き方について具体的に決めて理解する。 保護者との連絡方法を常に知り、災害時の連絡方法を決めておく。 ・通学路で地震にあった場合に、どうするかを家族で決めておく。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 「要支援者への防災」の輪に加わる	保護者が率先して、近隣の人との輪を広げ、顔の見える関係づくりをすることが子どもの安全につながります。 「要支援者への防災支援」について、地域防災拠点訓練で親子で学び、地域の人々とながりがもてるようにす。

〇〇小学校防災教育プラン 第1学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	緊急地震速報で、どのような場所でも安全な場所に移動することができる。 「お・か・し・も」を守り、秩序正しく避難ができる。 通学路での危険な場所、安全な場所を考え、身を守ることができる。	
	知識・理解	学校内や家庭内、地域で、危険な場所、避難すべき安全な場所について知り、安全な行動について理解している。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	健康や安全に気をつけて生活する。 生命を大切にすることを育てる。	日常生活とかかわって、健康や安全に気をつけて生活する態度や、生命を大切にすることを育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 運動会	上級生の行動に学び、自ら考えて身を守る行動がとれるようにする。 秩序ある、集団行動の取り方ができるようにする。
	生活指導	安全な登下校	登下校での、交通ルール、子ども110番の家、不審者に遭遇したときの対処法を知る。 地震に際しては、ブロック塀や電柱から離れ、「団子虫のポーズ」などで身の安全を図れるようにする。
	教科等	(国) ずっとずっと大好きだよ (生命尊重) (国) 話すこと、聞くこと (生) 学校探検	・道徳などとも関連して、命の大切さ、大切な家族のこと、高齢の人を思いやる心なども養う。 ・自分の名前、住所、連絡先、保護者との連絡のとり方などを言えたり、大切な連絡を聞き取ったりする。 ・学校の施設を隅々まで実際に歩いて知り、地震が発生したときの身の守り方を先生から聞いて学ぶ。
	生活科	学校たんけん	学校の隅々までたんけんして理解し、教室の他の場所で地震が来たときの身の守り方を教師に教えられて知る。
学 校 外 での 学 習 内 容	家庭内の防災教育	家の中の安全な場所、危険な場所 家族の連絡	・「家庭防災会議」で家の中でけがなく地震をやり過ごす動き方について具体的に決めて理解する。 保護者との連絡方法を常に知り、災害時の連絡方法を決めておく。 ・通学路で地震にあった場合に、どうするかを家族で決めておく。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 町の行事への参加	保護者が率先して、近隣の人との輪を広げ、顔の見える関係づくりをすることが子どもの安全につながります。 町の行事に参加しよう

〇〇小学校防災教育プラン 第2学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	緊急地震速報で、どのような場所でも安全な場所に移動することができる。 「お・か・し・も」を守り、秩序正しく避難ができる。 通学路や地域での危険な場所、安全な場所を考え、身を守ることができる。	
	知識・理解	学校内や家庭内で危険な場所、避難すべき安全な場所について知り、安全な行動について理解している。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	健康や安全に気をつけて生活する。 生命を大切にする心を育てる。	日常生活とかかわって、健康や安全に気をつけて生活する態度や、生命を大切にする心を育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 運動会	上級生の行動に学び、訓練の内容を知り、きまりの大切さを理解して実践することができる。 集団行動の取り方ができるようにする。
	生活指導	安全な登下校	登下校での、交通ルール、子ども110番の家、不審者に遭遇したときの対処法を知る。 地震に際しては、ブロック塀や電柱から離れ、「団子虫のポーズ」などで身の安全を図れるようにする。
	教科等	(国) スイミー (共助) (国) 話すこと、聞くこと	・道徳などとも関連して、共助の大切さや率先して正しい行動をとれることの大切さを考える。 ・自分の名前、住所、連絡先、保護者との連絡のとり方などを言えたり、大切な連絡を聞き取ったりする。
	生活科	(生) 町探検	・町探検では、「広域避難場所」の場所や、学校や家からのルートを確認する。
学 校 外 での 学 習 内 容	家庭内の防災教育	家の中の安全な場所、危険な場所 家族の連絡	・「家庭防災会議」で家の中でだけでなく地震をやり過ごす動き方について具体的に決めて理解する。 保護者との連絡方法を常に知り、災害時の連絡方法を決めておく。 ・通学路で地震にあった場合に、どうするかを家族で決めておく。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 町の行事への参加	保護者が率先して、近隣の人との輪を広げ、顔の見える関係づくりをすることが子どもの安全につながります。 町の行事に参加するようにする。 家族ぐるみで「地域防災拠点訓練」に参加するようにする。(学校も働きかける) 教師もかわり、よく理解する。

〇〇小学校防災教育プラン 第3学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	地域の様子を把握し、火災などの二次災害から避難する判断力をもつ。 家庭内で自分と家族がけがをしないために備え、行動する判断力をもつ。	
	知識・理解	地域の地形や住宅密集の様子などを知り、火災からの避難の仕方などを考えることができる	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	健康や安全に気をつけて生活する。 生命を大切にする心を育てる。	日常生活とかかわって、健康や安全に気をつけて生活する態度や、生命を大切にする心を育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 運動会	上級生の行動に学び、訓練の内容を知り、きまりの大切さを理解して実践することができる。 集団行動の取り方ができるようにする。
	生活指導	安全な生活	行動範囲が広がるなかで、地域の危険な場所や、避難に適した安全な場所を理解できるようにする。
	教科等	(社) この町の様子 地形と土地利用 住宅密集度 (国)ちいちゃんのかげ おくり	・この町の地形や、住宅の密集度などに気づき、火災の危険性や、火災の時にどこに逃げたらよいかについて、クラスや家族で話し合い、判断力を養う。 ・文章の読みとりから、空襲と大火災の恐ろしさを知り、火災からの早期避難の大切さを考えられるようにする。
学 校 外 での 学 習 内 容	「横浜の時間」	(社・総) 〇〇はももの里 田んぼと畑だったこの町	・桃の里の歴史を調べる中で、洪水を繰り返してきた土地の歴史と、田畑から急速に住宅街に変貌してきた町の歴史を知り、火災や洪水の災害の危険について関考えることができるようにする。
	家庭内の防災教育	家の中の安全な場所、 危険な場所 家族の連絡	・「家庭防災会議」で家の中で、大火災時の避難ルートについて具体的に考えられるようにする。 ・地域の様々な場所で地震にあった場合に、どうするかを家族で決めておく。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 町の行事への参加	・保護者が率先して、近隣の人との輪を広げ、顔の見える関係づくりをすることが子どもの安全につながります。 ・町の行事に参加するようにする。 家族ぐるみで「地域防災拠点訓練」に参加するようにする。(学校も働きかける)

〇〇小学校防災教育プラン 第4学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	家庭内で自分と家族がけがをしないために備え、行動する判断力をもつ。 地域防災拠点訓練に親子で参加し、地域防災拠点の意味や、防災のための備えを体験的に学ぶことができる。	
	知識・理解	地域の自然災害に対して先人が闘い、克服してきた歴史や現在も地域の人々が共助、公助によって地域の安全や災害時の助け合いをしようとしていることに、地域人としての生き方を学び、考えをもつことができる。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	内容2ー(4) 生活を支えている人々や高齢者への尊敬や感謝の気持ちをもつ	社会科や総合の学習と関連して、今の安全な生活が先人や地域の人々の努力や連携によるものであることに尊敬や感謝の気持ちを持てるようにする。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練	・煙体験をして、煙の怖さと対応を理解する。 ・宿泊体験学習を通して、「安全の三ヶ条＝正しい知識・正しい備え・正しい行動」を実践できるようにする。
	生活指導	安全な生活	行動範囲が広がるなかで、地域の危険な場所や、避難に適した安全な場所を理解できるようにする。
	教科等	(社) みんなで安全を守る (社) 神奈川県地形 (理) カセットコンロの使い方	・この町の地形や、住宅の密集度などに気づき、火災の危険性や、火災の時にどこに逃げたらよいかについて、クラスや家族で話し合い、判断力を養う。 ・神奈川県に丹沢山地のような山地、巨大火山箱根、関東地震の震源地である相模湾があることを学び、地震や火山と共存していくことが課題であることを学ぶ。 ・カセットコンロの安全な使用方法について学ぶ。
	「横浜の時間」	(総) 〇〇洪水とのたたかい (総) 愛川体験学習 「南から来た丹沢」 (総) みんなで守る地域の安全 「親子で地域防災拠点訓練体験」	・桃の里の歴史を調べる中で、洪水を繰り返してきた土地の歴史と、田畑から急速に住宅街に変貌してきた町の歴史を知り、火災や洪水の災害の危険にいて関考えることができるようにする。 ・地域防災拠点訓練に親子で参加して、地域防災拠点を中心に、地域の人々が町の安全を守り、災害に共助の精神で向き合う姿に学ぶ。
学 校 外	家庭内の防災教育	地域の一員として、地域防災拠点の役割を理解し、関心をもって地域防災に参加するようになる	・「家庭防災会議」で家の中で、震災後の火災への警戒、火災を発見したら、まず大声でたくさんの人に知らせること、初期消火の方法、大火災時の避難ルートや、について具体的に知り、考えられるようにする。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 町の行事への参加	・保護者と共に地域防災拠点訓練に参加し、地域の連携の中で生命と財産を守ることの大切さを知る。 ・町の行事に参加するようになる。

〇〇小学校防災教育プラン 第5学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	安全な家庭生活に関心をもち、家具の固定、食器など飛び出し防止の重要性を理解し、実践しようとする。 応急手当を学び、自分や家族がけがをしたら適切に応急手当てができる。	
	知識・理解	教科学習に関連して、地震、火山、台風、洪水などの自然災害への理解を深め、自然の理解や過去の災害の教訓を未来の防災に活かそうとする考えをもつことができる。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	自他の生命の尊重 社会に奉仕する喜び	具体的な資料を活用して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心や社会に奉仕する心を育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 箱根宿泊体験学習	消火器の扱いを実際に学び、火を小さいうちに消し止める、初期消火の大切さを理解する。 野外炊事の体験を通して、電気ガスが使えない状況での炊事をできるようにする。
	生活指導	安全な生活	最上級生として、下級生の手本になる安全への正しい行動がとれること。登下校などで下級生の安全確保のリーダーとなる自覚をもつ。
	教科等	(国) 百年の堤防を築く (安政東南海地震津波の教訓) (理) 台風 (理) 流れる水のはたらき (保) 応急手当	・防災教育の原点となる実話を読み解くことを通して、災害の教訓を生かし、未来の災害を克服することの大切さを理解する。 ・流水の働きで、〇〇に災害が繰り返されてきたことと、流水の働きが土地をつくってきたことを理解する。 ・簡単な応急手当について体験的に理解し、震災時には、身近なものを使って、自分や家族の応急手あえ手をする知恵をもつ。
	「横浜の時間」	(総) 神奈川の活火山、箱根 (総) 流水がつくった〇〇 (家・総) 地震に安全な家庭づくり	・箱根宿泊体験学習を通して、神奈川県が地球のエネルギーが集積している場所であることを実感し、地震、火山との共存について考えをもつ。 ・「快適な家庭生活」の発展として、震災に対して安全な家庭生活について、家庭防災マニュアルを主体的に作成できるようにする。
学 校 外	家庭内の防災教育	地域の一員として、地域某相拠点の役割を理解し、	・「家庭防災会議」で家の中で、安全な家庭生活について、自ら考えたり、災害リスクを同じにする、地域ごとの児童で集まって考えたりできるようにする。
	地域に生きる防災教育	近所の人と挨拶 町の行事への参加	・家庭の立地、建物から、災害リスクを考えたり、それに対する対策を考えたりできるようにする。

〇〇小学校防災教育プラン 第6学年 目標と指導内容

目 標	態度・実践力	「守りの三原則＝何を守るか 何から守るか どう守るか」に基づき、地震によって派生する危機に対応する思考力、判断力をもつことができる。 在宅被災生活を生き抜くための調理法などを体験的に学ぶ。	
	知識・理解	教科学習に関連して、地震、火山が国土をつくってきた事実や震災、大火災の歴史を学び、繰り返す自然現象に対して、被害を最小限にするための備えや方策を学んだり考えたりできる。	
学 校 での 学 習 内 容	教科・領域	取扱項目	指導内容例
	道徳	自他の生命の尊重 社会に奉仕する喜び	具体的な資料を活用して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心や社会に奉仕する心を育てる。
	行事	学校防災訓練 地域防災拠点訓練 日光赤城宿泊体験学習	近隣の火災に対して、バケツリレーの中継ぎを経験するなどして、将来の地域防災の主体となっていく自覚を育てる。 集団生活や野外炊事を通して、安全な行動のとりかたや野外活動の力を高める。
	生活指導	安全な生活	最上級生として、下級生の手本になる安全への正しい行動がとれること。登下校などで下級生の安全確保のリーダーとなる自覚をもつ。
	教科等	(算) 速度 津波の速度 P波・S波の速度 (理) 地震・火山による土地の変化 (理) てこのはたらき (社) 関東大震災	・速度学習を地震波の速度や、津波の速度で実際に計算してみる。 ・横浜の土地が地震や火山噴火の繰り返しでできていることを理解し、地震と共存する生活づくりについて考える。 ・てこの原理の活用によって、倒壊物の撤去もかのであることを考える。ジャッキも、エネルギー保存の法則で重いものを小さい力で動かせることを知る。 ・関東大震災で横浜が23000人の死者、小学生だけでも903人の死者を出し壊滅した歴史を真摯に受け止め、教訓を活かすように考える。
	「横浜の時間」	(家・総) 在宅被災生活のための備えと食事 (総) 地震に強い〇〇に (総) 地震火災をどう防ぐか？実技バケツリレーの方法	・「調理」の発展として、在宅被災生活を乗り切るための、水、トイレ、食事、電気などの工夫を考える。 ・何を守るか、何から守るか、どう守るか？の視点から、主体的に防災を考える。 ・具体的に、最大の災害リスクである火災を防ぐために、消火器の取り扱いや、人数に応じたバケツリレーの取り組み方を考えて実践する。
学 校 外	家庭内の防災教育	地域の一員として、地域某相拠点の役割を理解し、	・「家庭防災会議」で、安全な家庭生活、在宅被災生活について、自ら考えたり、災害リスクを同じにする、地域ごとの児童で集まって考えたりできるようにする。
	地域に生きる防災	近所の人と挨拶 町の行事への参加	・家庭の立地、建物から、災害リスクを考えたり、それに対する対策を考えたりできるようにする。

	教育		
--	----	--	--